諸林類葉

十六

内閣文庫
和書
三六七一九 類號
二〇 冊
二三三 函
二 架

内閣文庫
和書
三六七一九 類號
二〇 冊
二〇八 函
二 架

内閣文庫
番號 和 36719
冊數 20（16）
函號 208 29

国立公文書館
National Archives of Japan

櫻山文庫

内閣文庫

詞林類集巻之十六

末行

まの部

二言

清多濱臣輯

賜蘆文庫

新宮城書藏

ま

汝ヘ

万二十六 吾妹兒尓戀乍不有者秋芽之咲而散去

流花尓有猿尾〇万十一廿二 申〇同三 同廿 申〇同

六 同廿 同〇同七 同廿 同〇同十 同廿四 同〇同十一 同〇同十二 七 同

〇同八 同十 同〇同一 同廿 同〇同二 同廿 同〇同十 同廿四

同〇同十四十七 麻之毛安礼毋〇字多保

ましいえゑらし ①

まし 申（マフシ）

栄花 月宴 卅一 なけうしきにましますふ ○同 十四ウ さましの〻え

男女いみな観るの流生化度の為にあらしさせまつりて

そましと思ひなる ○同 九 同 十 君をしいのちなかきつれいと

ましなり ○同 一 同 廿 あはれ人の世にあはれなるにも人と

にまし思ひなる ○同 十一ウ 浦々別 いとおそろしく思ひまし

て ○同 オ 同 二 兵乱 あらう〻ましつらいは事にきこえあま

○宇治拾遺 条使 かいゆえまします〻きこえ〻まし

まし 猿之 ○ マシラハ猿ノ枕語

万二十 妹之家毛継而見麻思乎山跡有大嶋嶺

尓家母有猿尾 アラマシヲ ○ 八雲御抄

菟玖集 上略 さるの木の葉の中よりいと多く出たれは

ましも猿遠方人の声かはせ（わかれ）さまし〻きこえさする あきの〻坂

堀後百猿 兼昌 思ふるのおほえの山に世中をいうにまほしし こえ〻あり

セマシニ猿

ナヨセタリ ○

ましし 俗言ニハじとのこいふへき所にかくましじといふはさし

新六 為家 なゝとりそりさりとてもなもかましじの家中にうきをいたきていくとあかしけれ

信実

山家下
山ぶきに月見ほとゝぎす　ちるぶきに時雨ぶり

清輔尚歯会記　清輔
ちる花の後のなごりも惜まれぬ又も白雪ふるかとぞ

拾遺負外
ふる雪に人いりぬべし山の端の月

同下
見しとも思ひそめ侍ぬ秋のそらにあるもつきの影

拾玉三
かゝれる山のそば近き月をたにそむ侍とて思ひたるあり

詞花雑下　行尊
山せあい侍るも又侍ぬ梅の花ちりぬんとそうれしき

○第九　月毎　四十五
ちんの中にもあり侍ぬ侍ぬ　ちんやみちん

○外取　文玉
ぬ侍ぬ侍とて

侍そ　真麻

文木七　公朝
さうき葉に侍そのゝちのふきうけてふいあれの心ちせ

○

侍て　左右

山家下　賀茂
又ゝ〻に侍ぬ侍ぬ侍て多くの侍てにさけて又とゝ〻

侍か　真臭カ

雲井のうちゝ　同六百ふいたるの侍供を手にさるしほ
とい侍精進ゝてそ侍ぬ侍ぬ侍の侍か
も侍ぬ侍ぬ侍　○字部保　吹上中　侍かゝ〻ゝてゝを鳥け

マナハシメ
マナイタ
マナハシ

らる○盛衰記十二治承四年正月 中略 廿日春
宮ノ御袴着御マナ始 安徳帝也 御年三 ○今昔廿八 卅
魚箸削リ○同廿六 八 臭箸刀ヲ取テ○元輔集
兵部卿の親王のうらみていとあまり侍りける 返り
あま船に なほの海 浪せし人もありふなりや千とせをあまの河浪ならなん
○丈木廿三兵部卿親王家召魚味之昧哥 恵慶法師
○契沖云初召臭味之昧哥僧不可詠之元輔集可
従○

あさる 真字

栄花 三ウ さなしのたちかへ あさりといふらしうきなましくて○
枕冊子 四十 三段 あましこのほかなりうらやましくもしき あさりん
なにごときこえんもえらうれしさひあさるほどもれし○

あさる 菓

万七 憂子地 マナゴデ ○愛 ○催馬楽 我門 あまえのちかりの大須
のあされ山をみえて之らと山をみえて之○宇治保 若 藤原 ふ
おみちなげのあされひをみえ○同 なきさ こうちのうまうい あさる
きしそそのなひし○

ーー子
ーームスメ

梅に　梅にノ書

拾遺哀傷上

うきを捨て身のくるしきに風ふき梅にうき捨てしき夕べの花

続詞花　俊偶にうたて　能因法師

思ひたちぬるのいそべより人のさろを宿とする梅に

○

梅へ　同方也○今ヨリ昔ヲイヘルいてし也

宇多保　うらみ　いうたにとゝへて梅への世にいんとゝの川

うゝき　○前ノ字ヲ後人ノ心ニテヘト書ヒカメタルニヤ　○実方

集　多めとけ　うりうへ梅のうの八月に実モ前ノ字ヨリノ

書ヒカメカ　○大和物語百廿六　そまとり梅へもうゝいと

ほうゝきと云きうた。○

梅果

業花　花山　梅ひ　○大和物語梅らの小将のも

とに○同梅らの小将とゝるを。

梅ろ

拾遺哀三

夏菊の花にかゝる梅ろにけ梅ろうまゝ袖にいとゝゆん

蜻蛉日記

ちとゝ君ゝ君ゝ梅ろにけ梅ろ人にけ好とゝて

拾哀四　とゝ人とゝに

後人のうゝかりかほひつるてふまろい人をなひにけ

ーーオヤ
ーーハ、
ーーチ、
ーームスノ
ーーコ

○源 少女 宮井丁の夕ぐれにのぼる鞆にはるもさけそい
あら見とのぼるは 是ハ十四ハカリ也 ○同 玉かつら はるは過して今も
わほえほとて 少貳ノ娘ノ母ニイフ詞也

後拾哀四
あやふしとこゝろえのはる橋のまろなてうるその足かへん

○金葉哀下 思ひはこぬ人ゆへに みくはのにまはのつはりく
青つら君ならはるうはるかしくりき ドアルハ 拾遺雑哀 み
うりはるさはのつはりしあをつら君ならばれいはるかしくりき

金葉哀下 ドアルキ少シカヘテ傳ヘル也
つみらみのはるやい人をあくがれ君ならつきせいさえし この

○古事記 應神 加志能布迩云々麻呂賀知 日本紀同

吾カ尊ム天皇ト云心 国栖カ天皇ヲ申詞也 ○

三言

はきみ

卯取 うたをぬりはきゐわして

全雑上 輔弘
玉くしげふたみの浦の貝あけら はき波にこゑる春の山しこ

○

まげさ

狹衣 二上 六五十 うえきぬのうはぎにはけさといふそのをき

てらさうほひて○萩野八百吉云山伏ノカクルヲシコ成ヘシ猿ノモテ来テ肩ニカケシヨリ名ツケシト云又不動袈裟同物カケサノ類カスヽカケノ上ニツクルヲシコ成ヘシ猿ノモテ来テ肩ニカケシヨリ名ツケシト云又不動袈裟同物カ○或云麻袈裟ニヤ弘法大師ノ文ニ麻納僧伽梨トイフ事アルヲモテミレハテケサノ字ヲ下スヘキカ○

はさび　万却

楞嚴經贊尓生情万却羅鎖

拾遺

はさこの　はさこいはのあるり　お見るその時のゆを　ふ詞へ　そうとい　多うゑ

はさに　本居云豈ト云義ヘ

落くぼ西　廿七　人い　はさに　そ〳〵　や○第九　荒山　廿八　はさに

ろ　わそ　はさんや○竹取　はさに　世ま　ろ　ん　ろ　ん　ろ　の

ゆ　ゑ　ろ　ろ　て　わ　ろ　ん　や○同

はさき　全

新古雑下　遍昭

さかゆの宮に　ろ　わ　ろ　も　わ　ゆ　ろ　て　はさき　宿　に　も　い　ろ　ろ　ん　ろ　ん

○

清水　又篠

続詞哀上　仁和寺法

うへをつゝみあうつきに清水を祈して夢にさとれあつのあるを

○

まりや

愚侍日記　清水の殿上人なども男ひとにて多し。

清水　家房

古雑上　くらべ人

男ふたち清水せるぐいかにしき多清水をきうのにてみる

後撰雑一　七条后

さらのそに色えせぬ家いかりんやしらかほる清水しまて

返し　伊勢

六帖

うへとのゝ清水の井中いかりぬ先りを限りあるぬうけのうれい

伊勢集

拾遺神楽

さつき葉のかをかくれみこ見えい宮うら人を清水せりる

○　纏居（ミトヒヰ）ナルヘシ　圓居（ミトカヰ）ト云　説イカヽ

○

清水

万代春上　士御門院御製

足度せて祈も清水に祈あり　嘉正さて　さきに祈しも

まぶり　目

渡　柏木　多什　系　さうに　清ふ　つて　清ふ　つて

清ふ　祇

一万十二　世四

ふきしもの　あをの　ふり　筆祇　をひの　九祇に　そく　記も　そけぬ

○一万九　長　ふ　をもと　九　麻子　をしまて　○同十八　長　ふ　多

清ふ　まうし　をもと　未呂　宿を　ふまて　○渡　東屋　カ

ふもき　祇　まろ　祇み　祇ひ　ふて　ぬさふも　をかし　○今

昔　廿五　十二　装束　モ　不解　テ　九麻　ニテ　有ケレハ

拾　亥三　筆　筆の　をけに　ふる　清ふ　まろ　祇を　いくら　屋ぬ　人

同亥四　後　ふ　人の　ふる　かり　かほひ　つる　て　ふ　清ふ　や　い　人を　見ひ　ふる

千亥二　後　ふ　見ひ　きや　ふる　の　ふる　かき　こま　つて　ふも　ふ　祇　まろ　祇　せん　と　い

○

清ふ　や　全屋

枕　冊子　清ふ　や

拾　亥四　ふ　ふ　人の　ふる　かり　かほひ　つる　て　ふ　清ふ　や　い　人を　見ひ　ふる

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

清きもの　巻物

拾玉異本　らのへうー　さしくうる清きもの　の後に

も杉林の花さそ　○　その衣　祝田新上　人々あり清りて衣

みやあんと清きもの異る多り　○

清らりで

六帖五紅　いろにして衣をかくさんと思ふの宇ほの衣清らりたして

後拾秋上　良暹法師　袖ふれい家ちほまきり杉の生い清らりてあてを中へかりる

○袋草紙三ウ　云住吉神主国基良暹カ哥ヲ難

シテ云マクリテト云詞ヤハアル良暹云ヤー

清れ衣清らりてあて如何国基云僻事也紅ニハ

マクリテト云フアリ夫ヲ書誤也良暹暫按又

フリテ
マクリテ

云風紙の巻物にて綾のをのきそのあさきぬはらうまに
しとト侍ルい冥モ　フリテヲ誤欤ト云因墓

岡口

林葉二　ほとゝぎすの歌の多風美作はらうまにこそ立ちえ作つき
拾玉四百七十

同同八ウ

堀百不含意　匡房
はらうての袖にも哀のかきぬい波のいろ出そめ作り
堀後百ツ　らまきあのふりての之ぢ多つ〳〵いるつはそてにちるはきまつ
夫木六　紅のやしほの園の岩つゝ　ちや山三見のはらうてのそて
讃岐集
川ゆもらうて男ん岩つゝ　ふかはらうまにて

カチワサ
マケカタ

○

はけらき　輸物

三代実録仁和元年十月廿三日甲戌天皇御紫
震殿右近衛右衛門右兵衛三府　兵　右馬寮献物
冥去五月六日武徳殿前競走馬之輸物也○拾
遺雑秋天禄四年五月廿一日圓融院のみこと一
不高に源もとてらんさうせ多はけらきを七月
七日あゝ○同　賀　右大臣源光の家に糸裁令一付け
う はけらきをうて祝の品を人結　ゝう　者之

○頭昭拾遺抄注勝負ノ下ニハ勝ワサ負ワサ
トテスル也

後拾遺詠歌
負方の[illegible]人[illegible]に[illegible]ける彩形をうえ[illegible]まてにうれ

○

[illegible]

万代雑三
家隆
うゐ川原の[illegible]の涙の[illegible]の[illegible]地に[illegible]る松の秋[illegible]あ[illegible]

[illegible]

源 後合
いと[illegible]き[illegible]の[illegible]の上なども

あをらふ[illegible]つへの[illegible]○弄つくは[illegible]○竹
取やのうへにをる人とものきこえにいと[illegible]○大鏡
一三条 [illegible]もやさせ[illegible]○

[illegible]を 田夫ニヨミナセシハ後世也
金雑上田家老翁
[illegible]を山内の[illegible]に[illegible]
千載

[illegible]

大鏡一 花山 其家ハ土御門[illegible]れハ清逸[illegible]

ゆり ○

まちどをき

後拾春上　兼盛

花見ると家路におそくかへるは待どをきとて妹やいふらん

○

まちどほ

後撰　待遠

○枕冊子十廿八 待遠にくるしく ミミ

まつかうさ

都土産 松のかげたちかくれとうきあつかうて待しかうたにまつか

さとふるのきしして

同

末の松山待かうさいきなれともおもふにさそへ又やなき寄らん ないとたえに

同返し　宗久

浪さきぬ袖さへぬれぬ末の松山まつかうさのうけおもなき袖に

○

万

まつかうひ　間使

王二中廿六

底にあるされは千年のまつかひのかゝふをけぬき菅のきつつせ

○マヽノ松カエノ訛ニヤ

まてうゝ

主二集下

いせ物語のあはの海のはてゝうゝに物のこまいれもゝ

夫木卅五海人　御集　廿御微子内親王

はてゝうゝみあまのくきつしほ煙いりに多らぬとゝきゝ

○夫木卅五海人部　七巻々この考　○六百番判詞同顕昭

陳状○僻案抄○

はるかさゝ　眼皮

和名

○枕冊子三九　さゝきいとゝみる

発もうゝはるかさゝ　○遊仙窟

○源、柏木　はるかさゝのゝ冊をつきさゝ海も○

はるゝめ　守目

後拾哀三　あはをさけきまゝ発して海ゝゝめ物てつゝみさゝ

ゝしゝて

はるふ

万代雑四　為家

たゝしのさゝやけ家のまゝうに多の移きさゝ西あけぬひくゝい

○続世継　梅のホのもゝ　ゝゝのはゝ海ひのほて物ゝもはゝ

ふしみて○

五言

清かり祈る　清かりを助辞にえり

千神　そのら祢宜に清かり祈りて○拾遺哀傷　中納言敦忠清かりかきて後うゝ○同　同　右兵衛のふう

清かりかきにうゝみ

清かうえ　枕上

金葉雑上　枕うえみえる人のあらて○保憲女集ま

らうえにかもしらきうえらを人のおいきりれぶ○同

下枕うゝみ侍ちてうゝのけるゑ○枕冊子　せ原枕

上のうゝに中暑　枕上祈扇を○

清らうえ　枕箱

拾遺雑賀　敦忠朝臣　佐原にうゝ　枕草を立につえ

うりまえて○

清らうゑ　町足駄

拾玉四　みるひもつきうきのいまさい　町足駄　今を祈　道のねとさえみま

○

はらくあり

拾玉四

町くさりくさほひれてくをみれいとのもとろ皆ろれり

○

まろうとの　食物

源　玉りつ　はろ物ゆ物くをきまつくこりて○筆花

とろの名川くをはは傳厨子不ぐにをくく○

こエノアト
眉墨
眉造

まゆをぬく

海人藻故云彼御取　鳥羽　已前い男眉の毛をぬき

頻をそき又金をつらくの一切ものこと及ま代毎度矯飾

の玉し○取こくをの物語はゆをぬきう祝つけれくをんれ

ぶさせくもくこれいかニイ　○右の玉祝上はゆの跡

もれく風にあるまくりくを○東鑑四十九　十八

御眉墨御眉造○枕冊子　ゆのあるまくをせ

コレモサニ　うほれるゆ

イヘルナリ○

はろかくら　圓頭○法師ナ云

はるさしらけ

拾遺三 菱葉のたちそめにしはるさしらけまつのまろねをいくそたん

曽丹集 はるさしらけたちけるる宿の菱はまちうにゐてとくまてわけ白雪

○小町集長 もしも小大君集 はるさしらけたちけさそまろる○枕冊子

草いはるさしらけ

蜻蛉日記 物のそらなる人のはるさしらけまろそ人つけ物といふ所り

○

六言

はるさしらけの君 儲君

宇多保 はるさしらけ 其四の帝后はるさしらけの君に比翼を一つ

まる○源 桐壺 右大臣の女御はるさしらけ

き はるさしらけの君と世にそてうつき○小侍従集 正月

七日中宮のはるさしらけ若菜をせさせたまふに はるさしらけのさま

いとをもしろくうつくしうそて○

はるさしらけ 食物○ムサノツヽメコヒ ムサホルヲコホルト 云ナリ

宇多保 友京君 はるさしらけ 物日にまろ花をとり○土佐

日記かゝゞ[illegible]ん[illegible]ゝ[illegible]ん。

[illegible]　狂々

菊花　月宴十六

[illegible]　松臺

万代秋上　蟬[illegible]　[illegible]定嗣

[illegible]

壬二集下号松亮

[illegible]

同著山亮

[illegible]

○続詞花　阿波國司彼國の墨鉛に山下杉煙と[illegible]

良暹法師

鉛をつゝみ兎[illegible]

君[illegible]

○八雲御抄異名部

○続詞花　人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玄能聖人

○著聞三後白河院熊野詣に後代の宿に[illegible]

[illegible]に国司松燈をつゝて沙弟にあき
[illegible]　中暑　[illegible]いうほとゝぎす

清川のさほり　松氷

第九　つほらゝみし
千代ふるきまつのあいきまれとうちとけかるき　[illegible]

清川の葉風

続詞花集　後拾
くもりのそきつのうちにうゑ松のそ風あらをさまりつる

散木

六百番　顕昭

清川のそら

白氏集　五架三間新草堂石階松柱竹編墻

新古雑中　弐子内親王
[illegible]松のそらより移の為にとつへきそをふけふるき袖

○

清川ひきそ　未詳

中務内侍日記　六
[illegible]

て○同　セウ　セウ

七言

[illegible]

源[illegible]

[illegible]

[illegible]

散木七首上

為忠後百　親隆

[illegible]

○

[illegible]

百代首一山家首

山里の[illegible]

為忠後百

山風に[illegible]

○

[illegible]

音声

體源抄云参音声，楽春庭楽夏廬天楽秋万歳

楽冬万秋楽賀王恩太上天皇御賀用之最涼州

内宴用之渉河鳥同上臣下御賀万秋楽鳥向楽

再　太平楽芝雲楽高麗顔序　退出音声長芝子

[illegible]

船楽

通用還城樂行幸還御用之夜半樂 兼和御時御遊用之 宗明

樂 御願供養上高坐用之 海青樂 南池院船樂奏之 越天樂急高麗

新蘇利古 放生會御禊還御用之 常武樂 同前○中務内侍日

記廿日秋いたるに色きつるひまなる波ぬかくる○

菊花のかつきに色もしるく○

海をのみしの糸 真青新糸マヽヲホノ物カ

万代秋上 柳機に海をのみしの糸引うけてらるゝ色えぬ星合の空

○

十一言

雲の本に杖をつゝせ

赤染三 ちりぬるに海をみてしらるゝ家ぬち雲

の本につゝをつゝせきりしてをゝて

色にいる影ぬい松ぬかゝら海 雲も千年の杖いつきぐり

みの部

二言

みふ 御封

第九 ちそてぬ爰十 ○源 女女 侍多ちのつきかふり ○

御給年官年爵

三言

みざ免 見醒

庭のをゝ いたきをみさ免せる やゝ ふりそ ○源 初子

あれはさもしくゝ見さ免しるへき侍ふ板を ○

みづ　水

拾遺恋草上

秋ぎりの風をいそぎてみづに侍る男の衣の

万代集　仲実

いとけ男ぞあきあいのあるふるれ麻須香井衣みづふつゝ

壬二上ゼセ

みづふつゝ

七壇の一一一

長日の一一一

五壇の一一一

みづほ　御修法

第花　月宴　ゼニ　七壇の侍修法長日の侍修法○紫日記

五壇の侍修法○第花　花山　十三　長日の一一一○源氏

みづ川　御厨子○下ノ廿房ナリ

枕冊子十　ゼウ　セ　その次にい堪みづ川この事にゝれそ○

同十　ゼウ　ハ　みづ川のいとほしうして○

みふね

さ日記　みふねさ川そ免のさうめ物きそ物まこそ

みはゞ　御厩

第花　月宴　五十四　みはゞの侍馬免出て○同　廿　みてぬ免　みまゝ

の侍馬のさう物○源　廿六　廿　うゑに　みはゞして世にれ

き上馬ともを○小馬命婦集詠のうちに

[illegible]の中にまていりれのをいうさて

○同詠のうちのみいりてうまる

みるの 見物

菖蒲 月宴 [illegible]の○

みくりの 水分○水配

四言

古事記云次天之水分神次国之水分神訓分云久麻理

みくりの

回点ミツワケトアルハワレヨリ後人アヤマレリ

○王筐十二詳説

六帖

月詣二 経盛

夕[illegible]山にふりれいをけるも[illegible]える花の[illegible]浪

後撰哀四 敦忠

池[illegible]の[illegible]出[illegible]

六帖同

千哀一 基後

[illegible]

堀百首 俊仲

[illegible]

○

みきえて　　そけさえてのそのてさいさ

散木冬
雪をえて　たてまるえきの枝れい　さえをうさにそつきかりて

○

みちつま

都のつと　道つまの傍れて　○

みちえし　道橋

隆信集下　そのひにいと　ゐるき　傍を　ふさしたて　ゆて　ゆき

ふうたのの多に　ゆきし　乃傍を　流して　りて　ゆそ　うきしき

ゆ返しにて　いそき　ゆて　ゆき　ゆの　ゆ流ん　人い　ゆて　しあさ

くやと　ゆを　して

けふ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

○

みゆして　水傳

六帖六　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

夫木六同

○此哥 万二 水傳（ミツテノ）

新六 うつりしつての花は（衣笠）のつし 咲しちり お清のいり火 なるをやいみゆる

みぬめり 三結実

中務日記 みぬめりなる松のこゑあらあらきをきこひて○

みとしろ

曽丹集四月中 みあましりくみのみとしろ川そへて なるるい年のうみをいのらん

新六春田

みのうき 袁草○袁につつみきのきえあて刻さうれん 佐部ろ考

赤染集一 旅人ゆきし道のあめのふりしうち みのをかりて返し

けるとて

○ みかさ山ふもとの家のつゆけきにかりぬるみし我へのみのうき

みくるせ 耳癖

挟衣二上 四十四 ゆるくくらしぬくこゑりさちまへを 中納

この君みみくるせにここ○

みつき　耳附○心ツキニホホユルト云ヘキニ同シ

狭衣一下　十八オ　しさりたいてみつきにかほえられど○

みしげく

拾玉一　廿二

いはねふるこしきしのみつてもいつきはれる稲のまれ風

○和名

みくり

住吉物語　きえきはて思ふに耳なりあまて

草
の日
の忌

五言

みあまき

順集　賀茂の祭申の日　みあれ

あふひかけみあれあつけていのるとも世にきき西

文木七曽冊集四月中

みあまき神のそらいしをえてやそいのそのうをといのん

長秋詠草下

神代よりいつにらきりてこそあれ

万代神祇

○河海　枕賀茂祭前日於垂迹石上有神事号御形　御阿礼　御生也○花鳥　みあまきいしに依姫の別雷をうみ給ふ　御生とも書則うま

[illegible]

○保憲女集 文

○枕冊子 九十六段中みあれのせんしのこと

みあれのせんしのこと 人名也此人今昔ニモ見エタリ新古今雑上ノ作者也

山家集下

[illegible]

夫木七

○みあまし山 万代神祇若水 四季談四月

限賀茂一社 ○新古神祇 みあまに[illegible]

拾玉異本

[illegible]

宝治百首 首夏

[illegible]

夫木七

○拾芥抄下 未 四御阿礼

夫木七

みあまし川 行家

[illegible]

六帖二

[illegible]

○夫木七 みあまし山に 下同

夫木八 為綱

時雨[illegible]

源道済集

[illegible]

為忠百首 為業

[illegible]

夫木廿三 公朝

[illegible]

○

みうさ山

八雲みかきの山　大中少将異名　○後撰雑一云　兼輔朝
臣峯桐中将なり中納言に成りし又の年のきさらき
あらたのあそんに侍りてかきつけける思ひをのふるついてに
兼輔朝臣
ふりぬるのみかきの山はさほれと花はいつかしめうかしぬなれ
○顕注密勘　兼への野中の清水の条　云三笠山を近衛と
いふ事古事談并枕子も万葉古今にも本文なし
なき侍りけり中にてしけれなりとつきておかしく中事に
やゝ　○拾遺雑賀○円融九雑下○後拾雑二
和泉式部○続古賀　後鳥羽院下野　○後撰恋三少将実忠

うらひ侍る所をさりて世につきてそましなり春日の使
にいてまかりて侍りけれはよみ侍
そしえぬ為にもぬれてなかれみかきの山をなりにけり

○

みかはみつ　拾遺恋第上
としきのまちみきりのみかはに侍ふほかかも光をそへけり
○掃部式廿二下　御川水神春秋祭料○

みかしたゝき　御楽長

山家下　放生舎

みさゝ[illegible]の[illegible]ざき多て[illegible]ふるまひをてかゝ[illegible]秋の高人

○

みなもとの[illegible]　田室守

後拾遺

[illegible]ふいさつきに[illegible]

家集同

壬二集中　廿六

時雨ゆゝしきかみのみさゝきりいそく[illegible]

みちの人　其道しの人と[illegible]

さらの袖さえ　[illegible]の初とゝもえて[illegible]

事に[illegible]

○

みゝ[illegible]　火災

天武紀上　十才　日々夜々矢火處多○同下　廿失

火○玉[illegible]は十一　廿二　安元三年四月廿八日の

火災に○

みゝのゝ[illegible]　三途

源　松風　あ[illegible]の道に[illegible]一時に○河海経

云　呆　報若畫墨墮三途○地獄餓鬼畜生　花鳥

○

みれば　新朗　隱倫

○

みに　[illegible]

つゝて問答序　[illegible]

みの　[illegible]　続詞花下　和泉式部

[illegible]

○

みなき　[illegible]

紫集　[illegible]の一日　[illegible]に出　[illegible]

師の　[illegible]

[illegible]の神　[illegible]

○源　[illegible]

○同　横笛

[illegible]

○　[illegible]　彰国　女御の君に　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みやしろ

中務内侍日記 うへゝに参りつきてみやしろゝれハ
○夫木廿三 光俊 おほみやを 左注 此うたハ康元々年
十一月五日鹿嶋社詣て次第しろり侍りに

六言

みあかしふみ 御燈文
灑 玉かつし みあかし文かきて書るへしかきて○ 花鳥 李
部王記延長八年八月作願文遂祈長谷寺観音
願御病平愈将造白檀観音像及奉鏡一面灯明
十五灯

みかはやうと 御厠人○女官ノ賤しき也
延喜式 ○兼輔集さかしいかでといふ
みかはやうとにゝ○灑 須テ さきしみかはやうとを
○枕冊子 四段 みかはやうとかうをみえりきて○同
十三段 さきしみかはやうとまひしかうしといふはていつの
としまことをえらかくまし多りし○

みらい

宇治係 後京極 七月七日に御ゆ琴川に渉らせ給ひしに大きなる鯉ありて○元の毛孔上みらいとまし つきたてまつりて御ぶき清らかなるに引申孔いうしへう らるるをうして

みさうう清き 御庄御牧

源 須テ ○同 沿出 ○大和物語 さて國々の清庄御にはせてをのをくを○

みしれのいろ 三品色 ○藤ヘ

隆信集下 四十九

かつらあり 苑の色ひにそるきかこしれの えにの深くとい

○

みらいきふり

万

○都土産 をを初ふにまくさんも祝ん形き ゆうり

ゆりうえ○小嶋口号 ゆうさき 清ほくいきしうえ

をを初ふり みてをきぬ○

みつきのあさ　今俗麻ヲ水ニ漬スヲみづけト云同意カ

万代集三　中納言長方

綾ふるみつきのあさのそらさらさらさらさらさ

○

みつーあさひ　未詳恐誤字

第元根合

みそのふかさやいけるーみにさらーあさひのかけはるを

みえーあさひ　○

の誤ヵ

みつかのそへ

枕冊子

みつかのそへ　中お將ばかりにてをつー○

○中將内侍日記　汚さ

太神宮儀式帳

ーにつきてみかのそへそきぬ

新六　みゆき

ーにみつかのあのそ　みつきつれてそむそのの袖そのそりきー

○盛裏記世一公卿殿上人近衛宮御縄仆ノ未

ニ至ルマテ老タルモ若モ皆甲冑ヲ著シ弓箭

ヲ帶メ打立ケリ○延喜式綱丁

○安斉云大舍人助也百寮訓要抄に大舍人寮

行幸の時御綱ばかりをとる　風聲抄

御綱をとる○

みれば　ちゝ草　イツテ草ト同物カ伊勢ノ考合

壬二集上

○

みのけうの　馬

さかの油　序　馬いし　唐圓ゝり　淡ゝ　附馬のゝ

といふて　ゝ

みをのえつ　即漂〳〵

万代秋上　中宗師光

笠原にえをのえつもあれてやけるもせぬゝみ入ゝ

七言

みゝらきれん

源　紅葉賀　うへいゝゝらきの人をして○枕冊子　日の

いるほうにわきさせ山井の大納ゝ見しいまして　みう

らき　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

の夕ゝえ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

みとの　ゝ

万代亥三　顕季

いゝゝ　みとの　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

みのしろさるも　依カきつ
後撰春上

万代雑五
別てい
保憲女集
とゝら葉のふりそゝぐ山にはらひてみのしろ衣ほすてゝるまもなし

袋中子
ふれていく波の音ちそひけるとてゝるまもなし

昊い前大相国侍中某ト云者夫モ之後弟
僧，爰ニ異体ノスカタニモミエケレハ云々
後撰旅
山里の夢ちの家いそるゝん夢のうちさるもぬそしらるもきゝ

新十

みのつ紙形ぬ　病
隆信集下
冠（そゝ并のつ紙形く赤岩に記とゝみゝきゝの雪かい

○

みやさのいゝる
拾玉五一
新六　やと　衣笠
支木　乾
同同　寂蓮

都ノタツミ
都ノミナミ

彩雲いそゝさのいゝる行ひぬらき世のさと冠い形せとも
そゝか形そゝさのいゝる赤岩い大角山ふもと形りり

新古撰 移改太政大臣

六百番 冬合四

古今

万代集四

○

八言

後拾遺 諧 三月三日北の方の三日はらへ

○家集○文德紀一

九言

散木七哀上

ハムクマノ ヰソロシ

十言

[illegible]

源須子

十一言

[illegible]

業能 初花 五才 四月○同 同 三月○同 月宴 四十一 [illegible]

[illegible] 女御 懐子 ○同 [illegible]の別

三月[illegible] ○同 花山 世五 三月[illegible]

[illegible] 悟子 ○同 同十 同 詮子 ○源 若菜

下 [illegible] 神[illegible]

[illegible] ○

[illegible]

新古雑中 正三位季能

[illegible]

続後拾春上 藤金右大臣

[illegible]

新後撰秋下

神[illegible]

○契沖云冊後熊野郡熊能神社[illegible]を熊[illegible]

[illegible]本[illegible]て本謝郡も同回[illegible]

[illegible]云 [illegible]

[illegible]季能 [illegible]誤[illegible]

支木六 鎌倉本たに

みてしも行あつまるそのかのうらに 高の梅のえの花

○

十二言

みそらあはりうのうらひ

拾玉四 観音品以檀々形遊諸国王

三十あはり このうらひの蛭きいさは みかりうるかりかり

○

心の部

二言

心〜 椋

異本拾玉禁中

さまこをへん 人いさろをうるへきあほをの心くの人ふれあと

○

心げ

枕冊子十二十オ

ちくを若とほつあふみの神うけて山けみるをれのちこさりきや

拾遺物名 ちくをにしきうの山けふ山とい思ふ物

○ 僻案抄 心けを洞家に今海松と隠題の心ひ人ら

しき事ともあまいふの分あいをしへうしに○大和物語し
けれさてをーまりてんさてうへうせさる○

しさ　無期河

源　柏木　係いしりにしりへをそろこそいそせ海
ほーうーまふをそ　ろ　ゆかりもと　忍ふ　ろ　ろ○同　浮舟
しさにふーをり○大和物語　てをしーうりれをし
さる待をりる○讃岐日記　ゆーあるしさ
に係りぬ○今昔せ七　十九

し祇
山家下
家の風し祇をふーへきあもとい今ら思んと思ふと
同
神ふ月をくましをるれいあつまふの三祇あを月いし祇ををる
○

ーースヽキ
ーーキク
ーーハキ

しーー集

ーー萩　後拾玄一　○ーー萩　堀百萩　師形　○業花　玉の村　業

同　さ海ふく
流行まれ世海をに　つまもせしさーて白ーる岸のしー業
○同　伊賀　しーきーをりーるふ人りーるのーるのをの
海をも在○同　一ゆ業しー業係るのあるいうろ三ある

○一一萩　新古哀四　哀陳

○大和物語　祝きえめり

三言

しくい

土佐日記

くいしらんとうに○字新保

しん　無心

涙　玉つゝ　いとしんにしれて

しゝ　虫屋

続千神祇　虫屋をつくりて京大阪に資家のもとへ

新六虫　光俊

○

しろ

小馬命婦集

きりぎりすしろいうにう冥ふんをえめるうたあきい来にけり

席ニ寧ヲイ

ヒカケタリ○

しとゝ

枕冊子　しとゝ　ゆきの　とけのこりて　○源　廿廿

しとゝ　みけわたる　そう　枕　○同　梅枝　いつまでも　しとゝ

ゆきさえ　ゆえを　人　きゆ　ゆき　別者　ゆえ　てきしひ　ふ

○河　無憂　○源　仲川　これ　人　しとゝ　ゆ　ゆ　ふ　ゆ　まに　ゆ

ゆ　て　○同　蓬生　中門　ゆ　て　ゆ　ゆ　て　入　ふ　に

つけて　も　いと　しとゝ　ゆ　を　○細　面白き　事　も　ゆ　き　と　○

タノナイ　ツマラヌ　ト　譯　○源　常夏　ゆ　う　しとゝ

マヘキカ　ムゴキ　トモ

ゆ　ふ　ふ　の　あつえ　し　さ　う　れ　○帶　ま　汁　意　行集　しとゝ　ゆ　ふ　け　て　思

ふ　う　も　ま　み　も　え　ち　せ　さ　ゆ　る　つ　ま　う　つ　ゆ　○枕冊子　い　と

ほ　き　ゆ　も　遠　き　あ　ち　き　ゆ　る　人　の　つ　き　ゝ　孤　ま　う　詠　て　文　汁　ん　と

い　て　ゆ　ま　い　知　ま　え　人　の　か　り　ま　ほ　さ　う　に　う　き　て　や　ま　え　に　ま

ゆ　い　て　ま　ち　ゆ　て　返　事　も　こ　ま　せ　て　しとゝ　ま　い　ま

ゆ　ま　え　○

しとゝ

場百思　侯衣

しとゝ　ゆ　ゆ　う　ゆ　の　を　ゆ　え　の　ま　え　た　ま　え　あ　ゆ　の　友　ゆ　ゆ　き　も　う　ま　ま　え

林葉一

花　ゆ　に　見　え　ぬ　う　み　し　ま　ひ　て　ま　ひ　を　き　く　い　と　ふ　う　う　中

山家下

ふ　れ　と　ゆ　と　ゆ　み　雪　ふ　く　も　ゆ　ゆ　い　しとゝ　ま　ま　ま　を　あ　か　い　ま　き

○

ムカシ心
ムカシオヒ
ムカシメク
ムカシヤウ
ムカシビ

しゅう　村濃

後拾秋下　堀河右大臣

ゆふにたちのぼりわびぬれてたかかはの瀬の霧

○

四言

しうう　古今

○難太平記下只汗暖痛キ昔心ニテ

ゆかしきまさしくそうもの多きもしきかな

しうしうとしてしきりにうたうしきを○

○愚管抄五　昔人の人あまたそとして敵多にこの

るてさりはまて○今昔十九十七条　御筆ヲ手扣ニ遊

ハシケル程ニ此クノ人たノ参リタリケレハ昔

メキテ衣ニナム思サレケル○源蓬生　涉帳て

もいと古代ふるめきたるうしろめたしきを○

その玄裕上　そとなりのいしうしうあまい也　昔様○

しうしう火

河向焼　日本紀

○源竹川　いとうろうさき　涉ふかりとし

しうしう火つくまい○花　火のつきをにいさりはまを

つくまてし山之内の大い必湯をしひたといふその如く人の
時をうまてしたかく丹又復をあてかうまてし人のそういまて
ゆしへ○長曾根七さまこうそたもしまてしこうた
を作て朝家をかくしまてしかくうん○

しこうへ湯

字弘保　天文但書日記ノまゝニ錯入　湯内侍のうけの
かくしまてしまてしかくふ○ウブ子ノ二番湯ナイヘリ　○渡若菜上　東高野宮
有馬ゆいのうけつくまつ　湯内侍のうけ
まてしこうへ湯にちうらうえ
まもいてあうまてにうゝ○河委注可考○花延長四年

六月一日皇后産長児　村上天皇　内侍奉仕御湯
大君前湯○細　うゑ湯へ○字弘保　彩閑　湯西のうら
うの島君は湯西へ湯にゆのうふ○ムカヘ湯トハ即初湯ニテニ
人ムカヒ居テアムスル意カ　花鳥ニ前湯トアル其意カ○

しうゝ
ゑ
五七
みうゝ山さゆれにうゆふ山さうゝ
○長い野ブスマナヨメルナラン
龍胆ゆゝいうをうゝさいう

しさてゝ

小鳴口号　しさ寺に清つきあり　そまし　石山へそつう
せうふ。○

しーけら　虫へ
字彙保　こうろぎ　こうろぎ　ほうろ　しーしーとゝ人とも。○

虫の名
堤中納言　しー　矢つゝ　蛾　ちきぢろ。ぬかのそら。ぬかさまろ
あぢきなちゝとつけて矢ーつひ。○

国立公文書館
National Archives of Japan